

内町小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

主体的・対話的に学び、たくましく生きる子どもの育成
互いを認め合い、磨き合い、高め合う授業の工夫

校長

松永 健治

学力向上推進員

江東 久美子

【各校の取組状況の把握について】

校内研修、管理職による授業参観、教員間での情報交換等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○学習内容を概ね理解し、基礎・基本の力は身に付いてきている。また、約94%の児童が、授業が分かると答えている。</p> <p>○約88%の児童が、意欲的にタブレットを使った学習に取り組んでいる。</p> <p>●学力が二極化している。</p> <p>●得た知識・技能を、自ら相互に関連づけたり、他の学習の場面で活用したりすることに課題がある。</p>	<p>・ICTを効果的に活用しながら、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。</p> <p>・日々の学校からの学習課題に粘り強く取り組むことができる。</p> <p>・得た知識・技能を相互に関連づけ考えたり、他の学習の場面で活用したりすることができる。</p>	<p>・学びポケットやミライシードなどを活用し、個々の習得状況に応じた学習に取り組ませる。</p> <p>・習熟プリントや小テストなどの反復学習の際、確実に直しをさせることで、できた喜びを実感させる。</p> <p>・教師が違う視点から話し児童に考えさせることで、他の見方はできないか等、様々な視点から考える習慣をつける。</p>	<p>・引き続き、学びポケットやミライシードに取り組ませ、苦手な単元が克服できるような手立てを行う。</p> <p>・言語力をつけるために音読の機会を多くとり、熟語を習得させたり、主語や述語、修飾語の関係を意識して文章の内容を理解したりできるようにする。</p> <p>・ノートやワークなどで学びを振り返る習慣をつけ、既習の学習を生かす考えることができるようにする。</p>	<p>・タブレットを使っでの個別学習、授業中の補充問題、家庭学習での課題などに粘り強く繰り返し取り組み、基礎的な知識・技能の習得へとつながった。</p> <p>・得た知識・技能を相互に関連づけ考えたり、他の学習の場面で活用したりすることができる児童が増えた。</p>	<p>・タブレットを使っでの個別学習状況を把握し、個々に応じた取り組み方や学習内容をアドバイスできるようにする。</p> <p>・学力差に対応していくために、個々に合わせた課題の提示を工夫する。</p> <p>・タブレット活用や授業において、既習内容をフィードバックする時間を大切にし、学習内容の定着を図る。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○友達の見解を聞いて、考えを深めたり広げたりできつつある。</p> <p>○●約88%の児童が、根拠や理由を意識しながら、自分の考えをもつことに積極的である。その反面、資料をもとに読み取ったり、粘り強く考えることが苦手の児童が多い。</p> <p>●自分の意見や考えを口頭や文章で表現できていると答える児童は約68%であるが、ICTを活用することでそれが解消される児童が多い。</p>	<p>・資料の情報を取捨選択し、必要な事柄を読み取ることができる。</p> <p>・相手の意見をしっかりと聞き、自分の考えを広めたり深めたりできる。</p> <p>・ICTを効果的に活用し、自分の考えを明確に伝えることができる。</p>	<p>・目的意識をしっかりと資料を読み、グラフや表などは全体を見たり部分に目を向けたりと、必要に応じた見方ができるようにする。</p> <p>・対話的場面を取り入れる際、話し合いのポイントを示すことで、相手の考えと比較し、自分の考えを再構築できるようにする。</p> <p>・メタモジやパワーポイント、投影機などを活用させ、自分の考えを整理させる。</p>	<p>・話し方や聞き方、話し合いの進め方などの注意点を明確に伝えることで、話し合い活動が深まるようにする。</p> <p>・様々な例を提示し、考える過程で図や表などを使って書き表す習慣を身につけることができるようにする。</p>	<p>・いくつかの資料から必要な事柄を読み取ることができつつある。</p> <p>・ICTを活用することで、考えや根拠を明確に伝える力が身につくようになった。</p> <p>・ペア学習やグループ学習など学習形態を工夫することで、自他の考えの共通点や相違点に気付いたり、自分の考えを広めたり深めたりできるようになってきた。</p>	<p>・ペア学習やグループ学習に加え、ICTを効果的に活用し友達と意見交流できる場を増やすなど学習形態の工夫を続け、さらに自分の考えを広めたり深めたりできるようにする。</p> <p>・自分の思考の流れを可視化し、整理するために、ノートづくりの充実を図る。</p>

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○授業や家庭学習に真面目に取り組む児童が多い。</p> <p>●読書をよくすると答える児童は69%であり、活字離れが進んでいる。</p> <p>●自分の学力や学習状況を客観的に捉えることができつつあるが、課題克服に向けての取り組みは十分でない。</p>	<p>・授業や家庭学習に、主体的に取り組むことができる。</p> <p>・読書の楽しさや意義を実感し、進んで本を読むことができる。</p> <p>・自分の学習状況を振り返り、課題を見つけ、それを克服するために努力することができる。</p>	<p>・場面設定や課題の提示を工夫したり、児童のひらめきや気づきを価値づけたりすることにより、児童が学ぶ楽しさやわかる喜びを感じ、主体的に取り組めるような授業を展開する。</p> <p>・並行読書や教師の読み聞かせ、児童相互間での本の紹介などを取り入れ、様々な分野の本に興味をもたせる。</p> <p>・自分の得意・不得意を把握させ、苦手分野を克服するための自主学習に取り組ませる。</p>	<p>・継続して取り組める学習活動を考えるとともに、児童の関心を引くような新しい学習活動を取り入れていく。</p> <p>・図書室の活用を増やして、読書の時間を確保する。</p>	<p>・授業や家庭学習においてタブレットを活用することで、学習の楽しさや課題解決の方法を知り、主体的に取り組む児童が増えた。</p> <p>・学習の振り返りを行うことで、自分の理解状況を客観的に捉えることができるようになってきた。しかし、それをこれからの学習に十分生かしてきていない。</p> <p>・アンケートで読書をよくすると答えた児童は63%で、昨年度より低下した。</p>	<p>・引き続き、学習の振り返りの時間を大切に、見えてきた課題を次時に生かすことができるように声かけや支援の在り方を吟味する。</p> <p>・読書の楽しさや意義を実感し、進んで本を読むことができるための方策を考える。</p>